

## 1 研究主題

思考力・判断力・表現力を高める社会科学習指導の研究

## 2 主題設定の理由

### (1) 社会の要請から

今の子供たちやこれから誕生する子供たちが社会で活躍する頃には、情報化やグローバル化といった社会変化が予測を超えて進展するようになってきている。知識・情報・技術をめぐる変化の早さが加速度的となり、そのため、社会の急速な変化に対応し、その変化に主体的に関わり、その過程を通して、自らの資質・能力を高めながら、よりよい社会の創り手となることが望まれる。そのため、これからの社会を担っていく子供たちは、今後、社会的事象を単なる知識としてとらえるのではなく、社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり解決したりする活動を通して、知識を活用し、自分の考えを持ち、また考えをまとめ表現する力の育成が求められる。

以上の理由から、新学習指導要領に示された、学校教育を通して育成する資質・能力のうち、生徒の思考力・判断力・表現力を高めることを目指し、本主題を設定した。

### (2) 生徒の実態から

田川地区の子どもたちを取り巻く教育環境は必ずしも恵まれているとはいえない。特に学力の二極化も進み、学力の向上は喫緊の課題である。そこで、基礎基本を身に付けていると同時に、思考力・判断力・表現力をバランスよく効率的に高めていくことが必要であると考え、本主題を設定した。

## 3 主題の意味

(1) 「思考力」とは、自分の考えをもって他者と対話し、考えを比較・吟味して統合する等の活動を通して、よりよい答えや知識を創り出す力である。

(2) 「判断力」とは、必要な情報を選択し、解決の方向性や方法を比較・選択、関連づけ・統合することにより、自分なりの結論を導き出す力である。

(3) 「表現力」とは、伝える相手や状況に応じて、思考・判断したことを話したり書いたりして、自分の考えを表す力である。

(4) 「思考力」「判断力」「表現力」を高めるとは、社会的事象について多面的・多角的に課題を追求し、自分なりの結論を導き出した後、適切に自分の考えを伝えようとする学習過程を、毎時間の授業や単元内で計画的に実施し、3つの力を高めることである。

#### 4 研究の目標

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追求したり解決したりする活動を通して、思考力・判断力・表現力の育成を図る。

#### 5 研究仮説

学習過程において、次のような手立てをとれば、思考力・判断力・表現力を高めることができるであろう。

- 資料をもとに、自分の考えをまとめ、記述する活動に取り組みさせる。
- 他者との意見交流を通して、自分の考えを再構築させる活動に取り組みさせる。

#### 6 研究の計画

(1) 単元名 「2節アジア州 アジア州の農業の特色」

##### (2) 指導観

- 本単元は、学習指導要領の〔地理的分野〕の2内容「B 世界の様々な地域」「① アジア州」に該当する。世界の諸地域では、世界各州を対象として、それぞれの州内に暮らす人々の生活にかかわり、かつ我が国の国土の認識を深める上で効果的な観点から、州内の特色ある地理的事象を基に主題を設定し、その追求を通してそれぞれの州の地域的特色を理解させることが目的である。アジア州は世界人口の約6割を占め、範囲は広大である。東アジアは大部分が温帯に属し、降水量も豊かな地域である。そのため、様々な食文化が生まれ、日本もその影響を強く受けている。また、東南アジアや南アジアは大部分が熱帯であり、古くから稲作がさかんな地域である。西アジア、中央アジアは乾燥帯に属し、厳しい自然条件に屈することなく人々は創意工夫を凝らしながら生活を営んできた。本単元は、多様な自然環境と共存し、人々が営んできた生活や文化の様子、資源や産業の発展について学ぶことを通して、地理的な見方や考え方の基礎を培い、地域的特色や地域の課題をとらえさせる上で大変意義がある。
- 本学級の生徒は男子14名、女子11名、計25名である。授業中は積極的に発言をするが自分の考えを記述し、根拠に基づいて説明する活動を苦手とする生徒が多く存在する。事前にアンケート調査を行った結果が下記の通りである。

1. 社会は好きですか。嫌いですか。

好き、どちらかというとき	嫌い、どちらかというとき
19	6

2. 地理と歴史、どちらが好きですか。

地理、どちらかというとき	歴史、どちらかというとき
7	18

3. 社会の授業で、資料などから読み取って考えることは好きですか。嫌いですか。

好き、どちらかというとき	嫌い、どちらかというとき
7	18

4. 社会科で、資料などから読み取り考察して、文章にまとめることは好きですか。嫌いですか。

好き、どちらかという人喜欢	嫌い、どちらかという人嫌い
6	19

「社会科は好きですか。嫌いですか。」という質問に対しては、「好き、どちらかという人喜欢と回答した生徒は19名、嫌い、どちらかという人嫌いが6名」で、社会科の学習に興味・関心を持っている生徒は多い。ただ、「地理と歴史、どちらが好きですか。」という質問には「地理が好き」と答えた生徒が7名しかおらず、地理の学習に苦手意識を持っていることが分かる。また、「社会科の授業で、資料などから読み取って考えることは好きか。嫌いか。」という質問には「好き7名、嫌い18名」という結果になった。さらに「社会科で、資料などから読み取り考察して、文章にまとめることは好きか。嫌いか。」という質問には「好き6名、嫌い19名」となり、資料の読み取りや考察、そして、読み取った情報を文章で表現する活動に苦手意識を持っていることが分かった。

- アンケート結果から、本単元では写真や統計資料を多く提示し、読み取りや考察の活動に十分な時間を確保しながら行い、読み取った内容や自分の考えを記述する仕方や考察の仕方を身につけさせていきたい。そのために、比較、検討しやすい降水量や農業分布図を掲示し、気が付いたことを箇条書きで書かせる作業を行う。また、交流活動を通して他者との考えを比較し、新たに気が付いた内容を書かせる活動を取り組んでいきたい。最後に、深めた自己の考えを再度練り上げる活動を行い、自己の考えに価値付けをする。この際、4つのキーワードを用いて記述しやすいように工夫する。

### (3) 目標

- 身近なアジア州の生活・文化や産業について興味・関心をもって意欲的に追求しようとする。 (関心・意欲・態度)
- 季節風の及ぶ地域と及ばない地域の農業の違いや人口分布の違いについて、多面的・多角的な思考や判断ができる。 (思考・判断・表現)
- 統計資料などの比較から、自然環境と農業や人口分布などとの関連性を読み取り、それらの学習成果を略地図などにまとめる技能を身につけている。 (技能)
- アジア州をいくつかの地域に分けて人口や産業の特色を整理し、地域ごとの違いをふまえてアジア州全体の地域的特色がイメージできる。 (知識・理解)

(4) 単元指導計画

次	時数	学習活動・内容	評価基準			評価方法	
			関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能		知識・理解
一	1	アジアの自然環境について	地図帳を活用し、自然環境について調べている。			アジア州の地形や気候について知識を身につけている。	様相観察 ワークシート
二 本時	2	アジアの農業についてまとめる。	意欲的に自己の考えや他者の考えを比較し、考えを練り上げようとしている。	アジアの農業の分布に水降量と関連付けて自分の考えを記述している。			様相観察 ワークシート
三	3	中国の経済発展や生活の変化について			様々な資料を活用し、中国の急速な経済発展や地域の変化について読み取ることができる。	中国の急速な経済発展や地域の変化についてその特色を理解し、知識を身につけている。	ワークシート 小テスト
四	4	東南アジア工業化について		東南アジアで急速に工業化が進んでいる理由を多面的・多角的に考察し、表現している。		東南アジアの工業化について、理解し、知識を身につけている。	ワークシート 小テスト
五	5	南アジア・西アジア及び中央アジアの産業の発展と文化の特色について	南アジアや西アジアの産業の発展について関心をもち、その特色について意欲的に追求している。	南アジアや西アジアにおいて急速に産業が発達している理由を多面的・多角的に考察し、その結果を表現している。			様相観察 ワークシート

7 指導の展開 (実際)

(1) 本時

令和元年7月1日月曜日6校時(第3次の2)1年2組英語教室にて

(2) 主眼

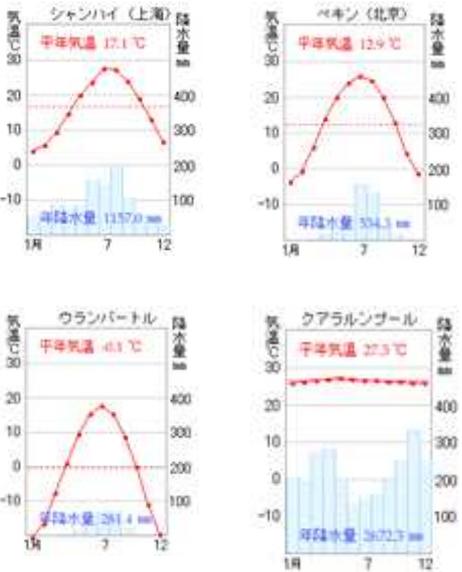
アジアの農作物と気候の関連について話し合う活動を通して、資料を根拠に農業の分布について考えを広めたり深めたりすることができる。

(3) 授業仮説

アジアの農業と気候の関連性について、降水量と農業分布図を比較して共通点や相違点を書き出し、話し合う活動をすれば、農業と気候の関連や特色について自分の言葉で考え表現することができるだろう。

(4) 準備 教科書 地図帳 ワークシート 資料（白地図、食材写真、雨温図）

(5) 展開

	学習活動・内容	指導上の留意点（◇評価）	配時
導入	<p>1 アジアの様々な種類の料理の写真を見て、何が食べられているのか、どんな材料が使われているのかを考え、めあてにつなげる。</p>	<p>○白地図にアジア各国の料理の写真や材料の一覧を提示し、発問をする。 ○料理や材料から気候について引き出す。</p>	7
	<p>めあて 地域によって栽培する農作物が違う理由を考えよう。</p>		
展開	<p>2 農作物と気候の関連について、自分の考えをまとめる。</p> <p>3 考えを交流</p>	<p>○資料を比較し、農作物と気候の関連について書く活動を設定する。この際、降水量と農業分布図を比較させ、気が付いたことを書くように指示する。</p>	8
展開	<p>○予想される生徒の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・降水量が多い地域は稲作がされているようだ。</li> <li>・降水量の少ない地域は畑作がされている。</li> <li>・降水量が少ないと農業が出来ないのではないか。</li> </ul>	<p>○他者の考え方をもとに自らの考えを広げたり深めたりすることができるように雨温図を提示する。</p>	10
展開	<p>4 新たな資料をもとに再度話し合いを行う。</p> <p>○予想される生徒の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雨温図を見ても降水量が多いか、少ないかによって作られている農産物が違う。</li> <li>・雨の少ない地域は、牧畜がさかんである。</li> </ul>		15

	5 交流をもとに再度自らの考えを練り上げる。	◇アジアの農業の分布について、降水量と関連付けて自分の考えを記述している。	
ま と め	6 本時の学習のまとめ	○エビの養殖がマングローブの破壊につながっているなど、私たちの生活が他国の農業と関係していることにもふれる。	10
	東・東南アジアなどの降水量の多い地域では稲作、中国北部・インド西部などの降水量の少ない地域では畑作、西アジアなどの乾燥した地域では牧畜など、気温や降水量に合わせた適地適作の農業が行われている。		

## 8 研究のまとめ

思考力・判断力・表現力は、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせた学習活動を通して育成される。そして、この学習活動をくり返すことにより「見方・考え方」がさらに豊かなものになり主体的・対話的で深い学びへとつながっていく。今回の公開授業研修では、「アジアの地域によって異なる農業分布の特色について、アジア料理の写真や雨温図を根拠に考えを練り合い、自分の言葉で農業分布の特色について記述させる」ことをねらいとして授業を実施した。当日、生徒達はアジアの降水量と農業の分布の資料を比較しながら共通点や相違点を見いだしていた。

また、各資料から得た自分の考えや他者の意見を交流して考えを深めることができた。そして、深めた考えと「降水量」「稲作」「畑作」「牧畜」の4つのキーワードを使ってアジアの農業について記述をしていた。事後研修会では、様々な角度から意見が交流をすることができ有意義な研修ができた。この日の公開授業のように、生徒が社会的な見方や考え方を働かせ、課題に対して自分の言葉による記述をくり返す指導をすることで、思考力・判断力・表現力を高めることができると考える。

## 9 成果と今後の課題

### (1) 成果

- アジア各地の料理写真を掲示することは、学習に対する生徒の興味・関心を引き出す上で有効であった。
- 導入段階（問いづくり）では、アジア各地の料理の材料から、材料と気候の関係について問い、生徒の発言を取り入れながら、めあてにつなぐことができた。
- 追求段階（思考づくり1個人活動）では、アジアの降水量と農業分布図を比較して、農作物と気候の関連について自分の考えを書くことができた。
- 追求段階（思考づくり2班交流）では、雨温図も活用して他者と考えを交流し、検討することができた。
- 終末段階（価値づくり）では、交流活動を踏まえ、「降水量」「稲作」「畑作」「牧畜」の4つのキーワードを使って、再度、自分の考えを記述させ、自分の考えを価値づけることができた。

## (2) 今後の課題

生徒同士の考えを交流し、自己の考えを書く活動に焦点をあてた授業を構築するために、降水量や農業分布図などの資料を活用し、各地域の共通点や相違点を書くことができた。しかし、農産物と気候の関連について考えを交流する際に雨温図も掲示したが、各地域のさらなる違いや共通性を見いだすまでには至らず、教師側の発言で自己の考えを深めた様子であった。

引き続き、これからも思考力・判断力・表現力を高めていくため、各資料などから生徒の考えを持たせていくために根拠となる相違点や共通点も書き出す場面を設定し、その上で交流活動などを取り入れていきたい。さらに、考えをまとめ記述する際には基礎的・基本的な知識・技能も必要なため、並行してそれらを習得する取組も充実させていきたい。